

# 空見るは忘我にあらず寒椿

藤田湘子

青空を見る時はどんな時だろう。だいたいぼうーつとしていて、はた目には心ここにあらず。リラックスしているのか悩み事でもあるのか、分かりにくい感じではあるが、頭の中ではゆつくりといろんな想念がめぐっていることが多い。流れ行く雲の形や吹き渡る風の音に励まされながら、「まあ、いいか」と我に帰り、少し元気になっっている自分を知る。掲句のように、そこに寒椿などあれば最高である。

湘子には冬椿の句がもう一句。後年の作であるが、「わが頭内外うちそと淡し冬椿」という句。掲句の気分に近いものを感じた。そして、「そのくらゐ考へてをる目刺食ふ」という句も思い出した。

1984年 (S59.01.27作) 第七句集『去来の花』 鑑賞・野本京